第43回 全国豊かな海づくり大会
～おんせん県おおいた大会～

資料編

功績団体表彰

各部門受賞団体一覧

部門名	賞　名	都道府県	団体名
栽培漁業部門	大会会長賞	大分県	大分県漁業協同組合別府湾地区4支店 （大分・別府・杵築・日出）
	農林水産大臣賞	三重県	赤須賀漁業協同組合
	環境大臣賞	北海道	サロマ湖養殖漁業協同組合
	水産庁長官賞	山梨県	小菅村漁業協同組合
資源管理型漁業部門	大会会長賞	大分県	大分県漁業協同組合姫島支店
	農林水産大臣賞	茨城県	大洗町漁業協同組合
	環境大臣賞	千葉県	銚子市漁業協同組合小型底曳部会
	水産庁長官賞	佐賀県	佐賀県有明海漁業協同組合大浦支所投網業者会
漁場・環境保全部門	大会会長賞	富山県	富山県立滑川高等学校 海洋クラブ
	農林水産大臣賞	大分県	大分県漁業協同組合津久見支店
	環境大臣賞	沖縄県	恩納村コープサンゴの森連絡会
	水産庁長官賞	長崎県	壱岐市磯焼け対策協議会

作品コンクール

作文

応募資格：大分県内の小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校、高等学校及び特別支援学校（小学部、中学部、高等部）の児童・生徒

募集部門：1. 小学校低学年の部（1年生～3年生）
2. 小学校高学年の部（4年生～6年生）
3. 中学校の部
4. 高等学校の部

募集期間：令和6年4月1日（月）～5月31日（金）

題　　材：「海」、「川」、「森」、「水産業」に関するもの。（海・川・森での体験や思い出、海・川の幸や水産業について思うこと、豊かな海を次世代に引き継いでいくためにできることなど）

応募実績

小学校低学年の部	小学校高学年の部	中学校の部	高等学校の部	合　計
62点	181点	112点	1,397点	1,752点

1. 小学校低学年の部

賞　名	題　名	学校名	学年	氏　名
大会会長賞	ぼくたちの海をまもろう	大分市立大道小学校	2	中園　瑛斗
農林水産大臣賞	ぼくは魚をまもりたい	大分市立敷戸小学校	2	小原　大河
環境大臣賞	大すきな海を守ろう	大分市立竹中小学校	3	後藤　杏奈
水産庁長官賞	パパといっしょに魚つり	佐伯市立佐伯小学校	2	成迫　基
大分県知事賞	のこしたいぼくの大すきなつるみのお魚	佐伯市立松浦小学校	3	甲斐　唯真
入選	海のみらいのために思うこと	学校法人別府大学 明星小学校	2	今木　由希乃
	海	大分市立明野北小学校	3	亀井　のどか
	ぼくが大好きなつるみの魚たち	佐伯市立松浦小学校	3	桑原　大河
	すごい！つるみの海	佐伯市立松浦小学校	3	塩月　風花
	海の思い出	佐伯市立佐伯小学校	3	御手洗　悠

作品コンクール

2. 小学校高学年の部

賞　名	題　名	学校名	学年	氏　名
大会会長賞	おじいちゃんが教えてくれたこと	大分市立敷戸小学校	6	安部　祥太
農林水産大臣賞	あゆが元気に泳ぐ三隈川に	日田市立日隈小学校	5	河津　愛梨
環境大臣賞	カブトガニが教えてくれたこと	豊後高田市立桂陽小学校	4	河野　陛之丸
水産庁長官賞	豊かな自然をいつまでも	国東市立富来小学校	5	中本　美心
大分県知事賞	海を楽しんで学んだこと	国東市立旭日小学校	6	松本　海優
入選	ぼくの夢は海洋生物学者	大分市立金池小学校	5	岡田　悠助
	守りたい大分県	大分市立春日町小学校	5	片岡　忠泰
	身近な海と川	別府市立春木川小学校	5	木村　悠人
	初めて海に入った時の気持ち	大分市立西の台小学校	4	曽根﨑　月
	ひがたの生き物たちとくらす世界	大分大学教育学部附属小学校	5	西嶋　千尋

3. 中学校の部

賞　名	題　名	学校名	学年	氏　名
大会会長賞	クヌギがつなぐ人と自然	大分市立竹中中学校	1	後藤　優奈
農林水産大臣賞	海と共に生きる	佐伯市立彦陽中学校	3	梅田　琉之介
環境大臣賞	山と海のつながり	佐伯市立宇目緑豊中学校	2	小野　初音
水産庁長官賞	わが家のアジフライ	大分県立大分豊府中学校	2	手島　悠希
大分県知事賞	僕の住んでいる島の自然	姫島村立姫島中学校	3	谷　吏輝
入選	これからの地球は	姫島村立姫島中学校	2	礒谷　愛里
	海とつながる私達の生活	臼杵市立野津中学校	2	後藤　咲月
	大分はたくさんの色でできている	大分大学教育学部附属中学校	2	西嶋　奏人
	海が好きになった	大分市立稙田東中学校	2	西畑　結菜
	落ちていたシーグラス	大分市立鶴崎中学校	3	山下　惟愛

4. 高等学校の部

賞　名	題　名	学校名	学年	氏　名
大会会長賞	海と人をつなぐこと	大分県立大分舞鶴高等学校	2	塩手　秀丞
農林水産大臣賞	島唯一の高校生の思い	大分県立海洋科学高等学校	3	丸山　海星
環境大臣賞	海と私たちの繋がり	大分県立高田高等学校	3	大石　理子
水産庁長官賞	感動を次の世代につなぐために	大分県立大分舞鶴高等学校	2	本木　悠喜
大分県知事賞	山の幸「ハゼ」	大分県立宇佐産業科学高等学校	3	佐々木　優羽
入選	見えなくても、生かされている	大分県立大分上野丘高等学校	1	岩下　真理華
	海に手を伸ばす	大分県立大分上野丘高等学校	2	甲斐田　湖珀
	一輪の花	大分県立杵築高等学校	2	佐藤　葵
	海から受け取る芸術	大分県立大分豊府高等学校	2	曲　佐和子
	海をつなぐ	大分県立高田高等学校	3	渡邊　徠華

作品コンクール

大会会長賞受賞作品

小学校低学年の部

ぼくたちの海をまもろう

大分市立大道小学校2年　中園　瑛斗

ぼくは、海の生きものの本や図かんを読むことが大好きです。その本の中で、ぜつめつしそうな生きものがたくさんいることを知って、とてもかなしくなりました。さらにその原因が、人間が海の生きものをつかまえすぎ、海をよごしていることが問だいだと知って、このままでは海から魚がいなくなってしまうのではないかとこわくなり、海をいじめる人間をゆるせないとさえ思うようになりました。

夏休みにセーリング体けんで海へ行った時のことです。さい後にみんなでゴミひろいをしたのですが、プラスチックなどのゴミがあまりおちていませんでした。でも、それは海をきれいにしてくれている人がいるからだとセーリングの先生に教わりました。自分たちが気もちよくつかうためだけではなく、海や魚をまもるためでもあるのだと気づきました。

また、ある日テレビでSDGsのアニメをやっていて、「十四番、海のゆたかさをまもろう！」と言っていました。ぼくはその言ばは、魚たちが自由に生きられる世界をつくろうといういみだと考え、自分に何ができるかもっとしらべてやってみたくなりました。今、家ぞくとすでにやっていることをしょうかいします。

まず、プラスチックゴミを出さないために、あまりペットボトルは買わず、お出かけするときは、かならず水とうをもっていきます。ペットボトルを買ったときは、すてる前に自分のおもちゃを作るざいりょうとして使い、さい後にきちんと分べつしてすてています。

つぎに、ビニールぶくろやスプーンも買わず、マイバッグを使うようにしています。外でごはんを食べる時は、自分のはしやフォークを家からもって行きます。学校でもわりばしを使わなくてすむように、おはしをわすれず、使ったビニールぶくろはゴミぶくろとしてもう一ど使います。どんなものでも大切に使うことが海をまもることにつながると思います。

海の生きものは一どぜつめつしてしまうと、もう二どともどってくることはありません。ぼくたちはぜつめつしそうな魚たちをまもることができるはずです。

ぼくはセーリング体けんや本、テレビでべん強したことを実さいのくらしの中でも活かして、海にやさしいことをこれからも見つけていきたいと思います。そして、ぼくは魚を食べることが大好きなので、おいしい魚をとってくれる人たちにかんしゃしたいです。ここに書いた気もちをわすれないように、これからも海の本を読み続けます。

ぜつめつしそうな魚たちを、ぼくたちの手でまもりましょう。

小学校高学年の部

おじいちゃんが教えてくれたこと

大分市立敷戸小学校6年　安部　祥太

去年の九月二十九日は、中秋の名月でした。ちょうどその日が満月だということで、家族で別府湾に月を見に行きました。夕方、着いた頃にはまだ辺りは明るかったけれど、だんだん暗くなってきて、真っ暗な海の上に月が浮かんでいました。遠い水平線から、海に反射した月の光が、まるで僕に向かって道が伸びているみたいで、本当にきれいでした。広い海と月明かりは、とてもきれいで、きっと僕の心に残り続ける美しい景色です。そんなすばらしい自然がすぐ近くにあるということに僕は気が付きました。

しかし、そんな豊かな自然は、何もせずに守られているわけではありません。僕のおじいちゃんは、大分県の最南端にある佐伯市の蒲江という所で漁をしていました。おじいちゃんの家に行くと、船で沖まで連れて行ってくれました。海は広くて、船に乗っていると、僕も風になったみたいで、最高の気分です。

だけれど、ある時、船の上から海を眺めていたら、釣り糸が絡みついて死んでしまった魚がぷかぷか浮かんでいました。おじいちゃんの釣った魚を食べるのが大好きなのに、死んでしまったその魚は、すごくかわいそうに見えました。港に戻った後、その日の浜辺には、ごみが大量に流れついていました。

なぜ、今日は海が汚れているのか尋ねたら、「潮の流れや天候によって、浜に流れ着くものは違うんよな。じいじたちは、時々、みんなでお掃除に行くんで。」と、教えてくれました。そこで、僕も「海のお掃除」について行くことにしました。

海岸に着くと、漁師仲間の人たちが集まっていました。みんな、手にビニール袋や火ばさみを持っていて、袋いっぱいにごみを拾っていました。浜辺には、木材や海藻みたいなものと一緒に、ごみがたくさんありました。瓶やペットボトルには、まだ中身が入っているものがたくさんあって、ふたを開けて黒く変色した液体を砂の上にこぼしてから回収しました。試しに臭いを嗅いでみたら、とんでもない悪臭でした。使い捨てのおむつも、海水を吸収して巨大になっていました。軍手をしていても、触るのに勇気がいりました。中でも、僕が一番びっくりしたのは、外国から流れ着いたものがたくさんあったことです。住所が書いてあるものがあったので、大分からの距離を調べてみたら、大分から千km以上離れた場所から漂流してきたものでした。海は、世界中の色んな国とつながっていて、ある国のごみが僕たちの海を汚してしまうことがあるし、逆に、自分たちが出したごみが、他の国の海を汚してしまうこともあるんだと気付かされました。

誰も行動を起こさずに、このまま放置していたら、海はますます汚染されて取り返しのつかないことになってしまいます。海洋汚染には、気候変動や森林伐採など、様々な問題が関係していて、個人の出すごみが全ての原因ではありません。だけれど、一人ひとりにもできることは、たくさんあります。あの日、僕たちが集めたごみは、十二袋もありました。たった一人でできることは、わずかかもしれないけれど、それでも、確かに浜はきれいになりました。

「祥太くん、じいじたちはなぁ、ただ魚を捕りよるだけじゃないんで。こうやって海を守ると、たくさんの魚が育つから、長く魚を捕り続けられる海になるんで。」

笑顔でそう言ったじいじは、もうこの世にはいません。もう会うことはできないけれど、目をつぶって思い出すと、おじいちゃんが、僕にすごく大切なことを教えてくれていたことに、気付かされました。だからこそ、次は僕の番です。おじいちゃんが守ってきた海を、僕も守っていきたいです。豊かな海を守るためにできることを探して、僕も実行していきます！

作品コンクール

中学校の部

クヌギがつなぐ人と自然

大分市立竹中中学校１年　後藤　優奈

私の住んでいる地域では椎茸が栽培されており、祖父の手伝いや、地域の方々に準備していただき、家や学校で駒打ち作業の体験をしたことがある。そして、小学校卒業前の三月に収穫もした。駒打ちの経験が何度もあっても、クヌギ林が近くになく、駒打ちの準備段階は一度も見たことがなかった。さらに、収穫し終わったクヌギがどうなるのかも知らなかった。

大分県のクヌギ林の面積は日本一であることをご存じだろうか。大分県内では国東半島宇佐地域のクヌギ林が一番広い。これは、椎茸栽培や薪炭用材として役立つクヌギをたくさん植林していたからである。このクヌギは国東半島宇佐地域の大切な水資源を守る重要な役割を果たしている。

国東は瀬戸内気候であり、県内で最も降水量が少ない。そのため、農業に使用する水が安定的に取れなかった。そこで、谷の多い地形を利用した、ため池を利用するようになった。ここで活躍しているのがクヌギ林だ。緑のダムとなり、ため池に貯まる水を安定させ、川の水量を調節し、水をかん養しているのだ。

このクヌギも成長すると伐採される。しかし、クヌギは切った根株から芽が出て、十五年で再生する。そのため、クヌギ林はずっと変わらないのだ。

伐採したクヌギは、主に大分の名産品である、椎茸の栽培に利用されている。ほだ木と呼ばれる短く切ったクヌギに、種駒という椎茸の種になる部分を打ち込んでいく。椎茸栽培に使用したほだ木は落ち葉などと共に腐植して、ミネラル豊富な土となる。その土は、水を中に貯めておける「保水層」を作り、土のミネラルをたくさん吸い込んだ水が、ため池から田畑へ流れ農業に利用され、そして川から海へと注ぐ。クヌギのサイクルが農業をより良くしているのだ。クヌギ林とため池は、農林水産業の循環に大きな役割を果たしており、更にはその美しい景観から、平成二十五年に「世界農業遺産」に認定された。私はそれについて調べたことで、初めてクヌギのサイクルを知り、とても感動した。

「世界農業遺産」とは、伝統的な農業とそれに関わって生まれた文化、土地利用、技術、景観、そして、生物多様性の保全などの点から世界的に重要な地域が認定されている。

国東半島宇佐地域のクヌギ林とため池は、世界的な視点から見た場合、自然と人間がバランスを取り、農林水産業が循環できるような管理がなされていることが、評価されている。自然を管理するために加えられた「手」が結果として、自然を守っているのだ。

私は幼い頃から自然豊かな土地で育ってきた。祖父母や地域の方の多くが、農業をしている姿を見たり、手伝ったりしてきた。しかし、同時に耕作放棄地や杉林に変わってしまった田畑も見てきた。その上で、「手」を加えていくことも、今ある自然の美しさを引き継いでいくことも大切だと実感している。「手」を加えなければ、自然は荒れ、恵が受けられなくなり、「手」を加えすぎると自然が失われてしまうのではないかと、私は思う。

国東半島宇佐地域は、今ある自然が自らうまくバランスをとり、農林水産業に活きていると感じる。ただ、そこには見えないところで人々による必要な「手」が加わることで、林やため池といった今ある自然のバランスを保っている。この土地に伝統的農業や文化が息づいている限り、持続可能な土地利用と、美しい景観がこの先も守られていくのだろう。

これは、クヌギ林だけに限ったことではない。その他の様々な自然や地域にも言えることだ。自然を知り、自然を活かしながら、丁寧に「手」を加えることが、生命の多様性や海、山、川などたくさんの自然、そして私達の住む地球を守ることにつながるのではないだろうか。私はそう思う。

高等学校の部

海と人をつなぐこと

大分県立大分舞鶴高等学校2年　塩手　秀丞

私の祖父はバスで魚を売るという仕事をしています。朝三時に起きて市場に行き、魚や氷を買って魚を売る準備をします。バスの中には、魚を捌く場所や魚の新鮮さを保つためのたくさんの氷を入れる場所などがあります。幼い頃は、両親が共働きだったので、よく祖父のバスに乗せてもらい、一緒に魚を売っていました。祖父の魚を捌く姿は職人のようであって、小さい頃の私の憧れそのものでした。大晦日には、家族全員で祖父の手伝いをし、正月明けに向けて準備していた時間はかけがえのないものでした。私にとって祖父の仕事は、まさに海と人をつないでくれる仕事だったのです。

しかし、そんな祖父も近年、地球温暖化や海洋汚染の影響でなかなか魚を仕入れることができずに、仕事をすることができない日々が続いています。また、少子高齢化やデジタル化が進んで行く中で、漁師や市場で働く人の数は年々減っていき、高齢化率が上がっている状況です。実際に市場に行ってみても若い人は少なく、施設も古いままでした。このままの状態が続いていくことになれば、新鮮な魚を食べる機会も減っていき、人間と海とのつながりが薄れてしまうのではないかと感じます。

人間と海のつながりを保つために、私たちに何ができるのか、考えてみました。それは大きく分けて三つ挙げられます。

一つ目は、海洋環境の改善です。今の状態としては、海岸にペットボトルやビニール袋などが落ちているのは当たり前の状態となっています。他にも、船からもれる油による汚れや温暖化による水温の上昇などもあります。これらを改善するためには、普段からゴミの分別やポイ捨てをしないようにすることが個人としてできることだと考えます。温暖化の改善やゴミの回収といったことは、個人が何かを行っても簡単に変化するものではありません。そのため、政府や県が行っている活動などをまずは知ることから始め、だんだんとそれを支持・支援していくことが大切だと考えます。

二つ目は、魚の養殖やブランド化に力を入れることです。近年のような魚があまり獲れない状態では改善すると言ってもかなり長い時間を必要とします。また、海産物は有限な資源であり、獲り過ぎていては量がどんどん減ってしまいます。そのため、養殖に力を入れることで天然の魚にも劣ることのないおいしい海産物を得ることができるのではないかと考えます。現在、大分ではかぼすブリやかぼすヒラメといった養殖魚がかなり広がっています。私も何度も食べていますが、どちらもカボスの香りがほんのりとして、とてもおいしい魚だと思います。かぼすブリやかぼすヒラメは、大分のブランド魚であり、近年その名前も全国的に知られてきています。ブランド化にも力を入れることで人々が知り、興味を持ってくれるため、海とのつながりもより深まっていくのではないかと考えます。

三つ目は、海に関わる仕事の魅力化です。海に関する仕事をする人が減ってしまうと、海産物を味わう機会が減ってしまいます。それだけでなく、海洋問題も改善されにくくなり、人と海のつながりは悪い面だけとなってしまいます。それを防ぐためにも、魅力的な部分を増やすことが大切だと考えます。例としては、設備をより良くすることや、販売方法の多様化、海に関することの発信を増やすことなど、様々なものが挙げられます。

このように、海と人とのつながりを保つには、やるべきことが多くあります。海洋資源を減らさないようにするだけでなく、増やす活動も行うことで、昔のような海の豊かさを保つことができると思います。憧れていた祖父の姿をもう一度見る日が来ることが、私の一番の願いです。

作品コンクール

大分市立大道小学校2年　中園　瑛斗

大分市立敷戸小学校6年　安部　祥太

大分市立竹中中学校1年　後藤　優奈

大分県立大分舞鶴高等学校2年　塩手　秀丞

作品コンクール

絵画

応募資格：大分県内の小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校（前期課程に限る）及び特別支援学校（小学部、中学部）の児童・生徒
募集部門：1．小学校低学年の部（1年生～3年生）
2．小学校高学年の部（4年生～6年生）
3．中学校の部
募集期間：令和6年4月1日（月）～5月31日（金）
題　　材：「海」、「川」、「森」、「水産業」に関するもの。（海・川・森での体験や思い出、海・川の幸や水産業について思うこと、豊かな海を次世代に引き継いでいくためにできることなど）

応募実績

小学校低学年の部	小学校高学年の部	中学校の部	合　計
1,743点	928点	263点	2,934点

1．小学校低学年の部

賞　名	題　名	学校名	学年	氏　名
大分県知事賞	たこがつれたよ	別府市立亀川小学校	3	吉野　陽菜
大分県教育委員会教育長賞	きれいな大分の海	大分市立碩田学園	2	北宅　湊
大分県漁業協同組合代表理事組合長賞	だいすきなまぐろ	大分市小中一貫教育校賀来小中学校	1	田中　航大
入選	海からのおくりもの	大分市立明治北小学校	3	戸畑　穂乃花
	かがやくうみ	大分市立寒田小学校	1	名村　縫
	きれいな海いつまでも	佐伯市立下堅田小学校	3	疋田　康紘

2．小学校高学年の部

賞　名	題　名	学校名	学年	氏　名
大分県知事賞	自然の美しさを大切に	中津市立沖代小学校	6	橋内　心奏
大分県教育委員会教育長賞	豊かな海	臼杵市立野津小学校	6	流　大智
大分県漁業協同組合代表理事組合長賞	集合！ぼくの街の特産品	佐伯市立佐伯小学校	4	神田　怜
入選	いのちがいっぱい　かがやく海	豊後高田市立戴星学園	4	白川　槻奈
	山から川、そして海へ	大分市立神崎小学校	6	伏見　優奏
	成長したらまた会おう	大分市立別保小学校	4	黒川　遥真

3．中学校の部

賞　名	題　名	学校名	学年	氏　名
大分県知事賞	海と生きてゆく	大分市立稙田中学校	3	前田　百花
大分県教育委員会教育長賞	海の宝石	別府市立別府西中学校	3	日野　心美
大分県漁業協同組合代表理事組合長賞	地球の海	大分市立上野ヶ丘中学校	3	関　理彩子
入選	海にかえそう	別府市立朝日中学校	2	安藤　優希菜
	関アジトライアスロン	学校法人岩田学園 岩田中学校	2	矢野　功一郎
	夕凪	日田市立北部中学校	2	椋本　瑚々実

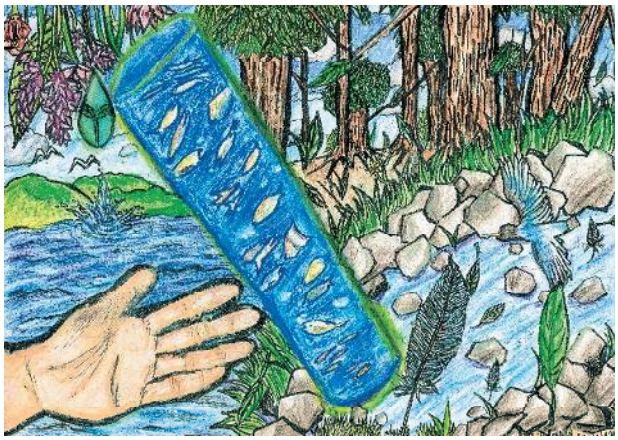
作品コンクール

大分県知事賞受賞作品

小学校低学年の部

たこがつれたよ

別府市立亀川小学校3年　吉野　陽菜



小学校高学年の部

自然の美しさを大切に

中津市立沖代小学校6年　橋内　心奏

中学校の部

海と生きてゆく

大分市立稙田中学校3年　前田　百花

作品コンクール

習字

応募資格：大分県内の小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校（前期課程に限る）及び特別支援学校（小学部、中学部）の児童・生徒
募集部門：1. 小学校低学年の部（1年生～3年生）
2. 小学校高学年の部（4年生～6年生）
3. 中学校の部
募集期間：令和6年4月1日（月）～5月31日（金）
題　　材：小学校低学年の部（1年生～3年生）「うみ」
小学校高学年の部（4年生～6年生）「豊かな海」
中学校の部　「海の恩恵」

応募実績

小学校低学年の部	小学校高学年の部	中学校の部	合　計
567点	2,336点	1,662点	4,565点

1. 小学校低学年の部

賞　名	学校名	学年	氏　名
大分県知事賞	日出町立大神小学校	3	佐藤　美月
大分県教育委員会教育長賞	大分市立明野西小学校	2	菊池　心之介
大分県漁業協同組合代表理事組合長賞	中津市立豊田小学校	1	溝口　碧花
入選	大分市立東大分小学校	3	森谷　咲月
	学校法人別府大学 明星小学校	3	加藤　大司
	臼杵市立市浜小学校	3	遠藤　なごみ

2. 小学校高学年の部

賞　名	学校名	学年	氏　名
大分県知事賞	大分市立下郡小学校	5	千原　彩葉
大分県教育委員会教育長賞	大分市立城南小学校	6	川内　桜諒
大分県漁業協同組合代表理事組合長賞	大分大学教育学部附属小学校	6	大畑　奏乃
入選	中津市立豊田小学校	6	永松　舞子
	大分市立南大分小学校	6	石井　咲名
	臼杵市立下北小学校	5	村上　翔星

3. 中学校の部

賞　名	学校名	学年	氏　名
大分県知事賞	大分大学教育学部附属中学校	2	木村　心鈴
大分県教育委員会教育長賞	豊後大野市立三重中学校	2	後藤　瑠花
大分県漁業協同組合代表理事組合長賞	大分大学教育学部附属中学校	3	髙橋　琉留
入選	中津市立中津中学校	3	松尾　桜子
	佐伯市立佐伯南中学校	1	竹尾　桜蘭
	日田市立戸山中学校	3	小袋　吏緒

作品コンクール

大分県知事賞受賞作品

小学校低学年の部

日出町立大神小学校3年　佐藤　美月

小学校高学年の部

大分市立下郡小学校5年　千原　彩葉

中学校の部

大分大学教育学部附属中学校2年　木村　心鈴

新聞報道

大分合同新聞 24面
令和3年11月3日掲載
（大分合同新聞提供）

全国豊かな海づくり大会
24年度大分開催決まる
1981年以来

県は2日、2024年度の「第43回全国豊かな海づくり大会」の開催地が大分県に決まったと発表した。1981年9月に第1回が豊見町（現佐伯市）で開かれて以来、県内では2回目となる。会場や時期は未定。

水産資源の保護・育成を目的に、関係団体でつくる推進委員会と地元が主催。種魚放流や漁船パレード、功績団体表彰がある。毎回、天皇、皇后両陛下が出席されている。

第1回には皇太子ご夫妻（現上皇ご夫妻）が来県され、マダイなどの種魚を放流した。

県漁協は6月の総会で、県に大会招致を求める特別決議をし、広瀬勝貞知事に要望書を提出していた。

中根隆文組合長（62）は「国東市内の新しい県種苗生産施設も23年度から本格稼働する。大会は県水産業発展の大きな弾みになる」と話した。（佐藤雅史）

大分合同新聞 22面
令和4年10月4日掲載
（大分合同新聞提供）

式典行事は大分市
海上歓迎は別府で
24年、豊かな海づくり大会

2024年秋に県内で開かれる「第43回全国豊かな海づくり大会」について、皇族が出席される式典行事は大分市のいちご・グランシアタ、海上歓迎・放流行事は別府市の別府港が会場となる。3日、県実行委員会総会で決定した。

実行委事務局の看板を掲げる佐藤事務局長（左）と高野英利課長

大分市内のホテルで設立総会（会長・広瀬勝貞知事）があり、水産団体や行政などから委員60人が出席。▽資源保護と管理の推進▽自然環境保全▽水産物の消費拡大▽県の魅力発信―の四つを基本方針に定めた。

大会は1、日曜の2日間で、各地での種魚放流や県農林水産祭との連携も計画している。今後はテーマやロゴマークデザインを募る。

実行委事務局を務める中根隆文県漁協組合長は「県全体の漁業振興につなげていく」と決意を明した。

県庁では佐藤雅彦農林水産部長と高野英利漁業管理課長が実行委事務局の看板を掲げた。高野課長を含めて5人態勢で準備に当たる。

大会は大分、豊後高田市が出席される「四大行幸啓」の一つ。県内では1981年に第1回が鶴見町（現佐伯市）の松浦漁港で開かれて以来、2回目。当時は皇太子（現上皇）ご夫妻が来県された。（佐藤雅史）

みなと新聞 4面
令和5年3月1日掲載
（みなと新聞提供）

県新種苗施設が初出荷
大分 海づくり大会へリレー放流も

【大分】大分県は、2023年度に全体完成を計画する県種苗生産施設（国東市）の建て替え工事のうち、一部完成した新施設で育てたマコガレイ稚魚（10センチサイズ）2000尾を9月25日に初出荷した。この稚魚は24年秋に県内で開かれる第43回全国豊かな海づくり大会の周知に向けたリレー放流（第3回）の種苗として同日、国東市の平床漁港で同市内の小学生や漁協、県関係者らが放流を行った。

同施設は半世紀にわたって県内の栽培漁業を支える種苗生産拠点の役割を果たしている。生産機能を強化するため、21年11月から建て替え工事に着手。23年1月にマコガレイやキジハタなどの種苗生産棟Bや屋外水槽を新設し、飼育水槽や閉鎖循環式システムなどの最新設備を備えた生産棟Aが完成し、育成が始まった。23年1月から建て替え工事に着手。23年1月にマコガレイやキジハタなどの種苗生産棟Bや屋外水槽を新設し、全施設が完成する。2月25日に現地で初出荷式があり、広瀬勝貞知事や広野淳水産庁増殖推進部長、三河明史国東市長、中根隆文大分県漁協組合長らが出席し、生産棟Aの見学など建て替え工事の進捗（しんちょく）を確認した。また、同大会に向けたリレー放流は22年10月を皮切りに、24年度まで県内各地で実施していく計画だ。

最新設備で種苗生産機能を強化した新施設（生産棟A）

国東市内の小学生らがマコガレイ稚魚を放流した

新聞報道

大分合同新聞 12面
令和5年6月15日掲載
（大分合同新聞提供）

大きくなって会おうね

亀川の園児らがマコガレイの稚魚放流

稚魚を放す子どもたち＝別府市古市町の関の江海水浴場

【別府】別府市の亀川小と亀川幼稚園の子どもたちが9日、同市古市町の関の江海水浴場でマコガレイの稚魚を放流した。県内で来年開催される「第43回全国豊かな海づくり大会」に向けて、「つくり育てる漁業」を知ってもらおうと大会県実行委員会が企画した。

児童や園児計約70人が参加。県漁協別府支店の脇文生運営委員が「稚魚は数年後、大きくなって帰ってくる。安全に放流してください」とあいさつ。県東部振興局の職員がマコガレイの特徴や放流の仕方などを説明した。

子どもたちはバケツに入れた稚魚計約千匹を海に放した。同小1年の浅井颯君（6）は「大きくなってねという気持ちで放した。楽しかった」と話した。

（横田壱成）

水産経済新聞 1面
令和5年7月4日掲載
（水産経済新聞提供）

テーマやロゴマーク決定

来秋の海づくり大分大会

めじろんコスチューム

【大分】2024年秋に大分県内で開かれる「第43回全国豊かな海づくり大会＝おんせん県おおいた大会」の県実行委員会（会長・佐藤樹一郎知事）は6月29日、県庁で総会を開いた。大会テーマを「つなぐバトン 豊かな海を 次世代へ」としたほか、ロゴマークなども決定した。

公募した大会テーマは県外者を含む1098人から寄せられた1556点の中から選ばれた。「豊かな海を次代に引き継いでいく」という基本理念を、子供から大人まで幅広い世代が理解できる分かりやすい表現で例えている点が、審査委員に評価された。

大会マスコットキャラクター「めじろん」のコスチュームは、漁業の明るい未来と勇ましさを表す大漁旗をイメージしており、背面には生きのよい魚をあしらった。大会ロゴマークは、県内の豊かな海や川で泳ぐ魚の群れを表現している。

「第43全国豊かな海づくり大会」は来年秋に、式典行事が大分市のi-ckoグランシアタ、海上歓迎と放流行事は別府市の別府港第4埠頭で開催される。

大会ロゴマーク

大分合同新聞 11面
令和5年7月5日掲載
（大分合同新聞提供）

400匹大きく育ってね

大分市の佐賀関小 マダイ稚魚を放流

マダイの稚魚を海に放つ児童＝大分市白木

【大分】人分市の佐賀関小の児童が6月29日、近くの県漁協佐賀関支店荷さばき施設でマダイの稚魚400匹を放流した。来年秋に大分県で開かれる「第43回全国豊かな海づくり大会～おんせん県おおいた大会」の関連行事。同大会県実行委員会が主催した。

全校児童46人が参加した。県中部振興局の職員が「2、3年で50～60㌢に成長する」と説明。児童は体長6㌢ほどの稚魚の入ったバケツを持って浮桟橋に並び、「元気に育ってね」などと言いながらそっと放った。

同支店の佐藤京介支店長らの案内で施設内の出荷場や、関あじ・関さば特有の買い取り方の「面買い」も見学した。

6年の茂野光星君（12）＝顔写真＝は「佐賀関の海はきれいで、他の県に負けないほど魚が豊富。まだ赤ちゃんで逃がすのは寂しかったけど、餌をいっぱい食べて大きくなってほしい」と笑顔を見せた。

（宇井美智子）

大分合同新聞 20面
令和5年8月2日掲載
（大分合同新聞提供）

来年11月10日に決定

全国豊かな海づくり大会

水産資源の保護や漁業の振興を目的に県内で開く「第43回全国豊かな海づくり大会」の日程が、来年11月10日に決まった。県が1日、発表した。

大分市のいいちこグランシアタで式典行事があり、県内の水産業の紹介、功労団体の表彰などがある。別府市の別府港では、漁船の海上パレードや稚魚の放流などを予定している。9、10日に県内各地で水産関連のイベントも実施する。

県内は2回目の開催となる。1981年に第1回大会が鶴見町（現佐伯市）で開かれ、当時の皇太子（現上皇）ご夫妻が来県された。

（清松俊朗）

新聞報道

大分合同新聞 20面
令和5年9月1日掲載
（大分合同新聞提供）

森川海つながり実感

県内各地の小学生16人参加

男池周辺の原生林を見学する児童ら＝由布市庄内町阿蘇野

県内の小学生が豊かな自然環境を学ぶ「森川海つながり実感プロジェクト」が2日、大分、由布両市であった。来年11月に県内で開く「第43回全国豊かな海づくり大会」県実行委員会が企画した。

県内各地の4～6年生16人が参加し、由布市庄内町阿蘇野の男池湧水群を訪れた。

日本文理大の杉浦喜雄名誉教授や環境省の自然保護官が案内役を務めた。原生林が残る黒岳の説明を受け、湧水と持参した水道水を飲み比べした。川で育まれたエノハの塩焼き、湧水を使ったそうめんも味わった。

16人は大分市豊海に移動。「別府湾をきれいにする会」が、会で運航する海の清掃船に乗船体験した。同市神崎の大分マリーンパレス水族館「うみたまご」では、川や海を再現した水槽を見学。大量の水をろ過するシステムも勉強した。

16日に県北地域、30日に県南地域でも開く予定。

（佐藤雅史）

大分合同新聞 10面
令和5年9月19日掲載
（大分合同新聞提供）

キティちゃんと奈多海岸を清掃

親子20人ら参加

【杵築】杵築市の奈多海岸で16日、「親子でキティちゃんと一緒に海岸清掃」があった。

来秋に開かれる「全国豊かな海づくり大会～おんせん県おおいた大会」の関連イベント、別府、杵築両市と日出町の漁業者でつくる「別府湾漁業青年協議会」（三ケ尻正一会長）が催した。

キティちゃんと清掃活動をする参加者

親子20人と、同協議会員30人、日出町のハーモニーランドからキティちゃんが参加。余狩江地区住民自治協議会（木村謙次郎会長）などの加勢を受けながら、海岸に散らばる流木やプラスチックごみを拾った。

（藤内真治）

みなと新聞 5面
令和5年11月7日掲載
（みなと新聞提供）

海づくり大分大会へ盛り上げ

開催1年前で漁船団パレード

【大分】2024年11月10日に大分県内で開催される「第43回全国豊かな海づくり大会～おんせん県おおいた大会」の1年前プレイベント「おおいた海博」が4日、別府市の別府国際観光港であった。大会本番に向けて式典行事と海上歓迎・放流行事を実施。また、機運醸成を図るため、会場では大分県漁協の支店らによる魚介類の試食・販売、魚のつかみ取りなどのイベントがあり、多くの人でにぎわった。

式典では佐藤樹一郎大分県知事が「つくり育てる漁業のさらなる取り組み、水産物の消費拡大、海洋プラスチック問題対応など、県民総参加で創成するこれからの豊かな海づくりを全国に発信していく」とあいさつ。来賓の大分県選出の岩屋毅衆院議員、坂東之水産庁増殖推進部長が祝辞を寄せた。また、大分高校書道部が大型キャンバスに大会テーマ「つなぐバトン豊かな海を次世代へ」の文字と大きな魚の絵を描いた書道パフォーマンスを披露した。

漁船団による漁法紹介パレード

大分高書道部が大型キャンバスに大会テーマを描いた

海上歓迎行事では、大漁旗で飾り付けた60隻ほどの漁船団が別府湾をパレード。船引網、一本釣や底引網などの漁船も登場し、大分県内で行われている漁法を紹介した。

放流行事はマダイとマコガレイ稚魚を関係者約200人が海に放した。

会場では水産物を振る舞うイベントの他、さかなクンのトークショー、「おおいた県産魚の日」運営委員会による小学生絵画コンクールの入選作品の展示などがあった。

佐藤知事（中央）ら関係者が稚魚を放流した

新聞報道

大分合同新聞 23面
令和6年4月1日掲載
（大分合同新聞提供）

KEIKOさんナビゲーター役に

海づくり大会実行委

「第43回全国豊かな海づくり大会」県実行委員会（会長・佐藤樹一郎知事）は27日、県庁で総会を開き、大会計画案を承認した。11月10日に大分市のいいちこ総合文化センターで開かれる式典行事では、音楽グループ「globe」のKEIKOさんとマーク・パンサーさんがナビゲーター役を務めることを決めた。

実行委員会総会に出席した関係者

式典行事には全国から約千人が参加し、水産関係の功績団体を表彰する。関の鯛つり唄・おどり保存会、津久見樫の実少年少女合唱団などがパフォーマンスを披露する。

その後は別府市の別府港で漁船団パレードやマコガレイ、マダイの種魚放流を予定している。

大会は天皇、皇后両陛下が参加される「四大行幸啓」の一つ。1981年に第1回大会が鶴見町（現佐伯市）の松浦漁港で開かれて以来、県内では2回目。（佐藤晋史）

大分合同新聞 20面
令和6年8月3日掲載
（大分合同新聞提供）

大分市でイベント

カウントダウン開始

海づくり大会「あと100日」

11月に県内で開かれる「第43回全国豊かな海づくり大会」の100日前イベントが2日、大分市要町のJR大分駅府内中央口広場であった。県や漁業団体などでつくる県実行委員会の主催。本番までの日数を示すカウントダウンボードを、大会ナビゲーターを務める音楽グループ「globe」のKEIKOさんやマーク・パンサーさんらが点灯した。

カウントダウンボードを点灯した子どもや関係者＝2日、大分市要町

ボードは高さ150センチ、幅95センチ。関あじ、関さばや養殖ブリといった県産ブランド魚のイラストが描かれており、大分駅構内に設置する。

県実行委員会を代表して尾野貴伯副知事が「子どもたちに水産業の魅力を発信し、環境保全の大切さを伝えたい」とあいさつ。トークショーがあり、KEIKOさんらは「おいしい県産魚を（全国に）もっと伝えたい」などと話した。

当場合には県産ハモの力ツ500食が振る舞われた。実家から別府市に帰省中の児玉若葉さん（9）は「初めて食べた。普段食べる白身よりおいしかった」と笑顔で話した。

全国豊かな海づくり大会は水産資源の保護育成や、環境保全の機運を高めようと各地で毎年開催。1981年の第1回大会は鶴見町（現佐伯市）の松浦漁港であった。当時の皇太子（現上皇）ご夫妻が来県し、マダイの種魚などを放流された。県内で開くのは2回目。

11月10日に大分市のいいちこグランシアタで式典があるほか、別府市の別府港で放流などの行事がある。（横松俊朗）

大分合同新聞 21面
令和6年8月9日掲載
（大分合同新聞提供）

県内巡り計43回

リレー放流 完走

海づくり大会事業

11月に県内である第43回全国豊かな海づくり大会のリレー放流最終回が6日、佐伯市米水津浦代浦の米水津はまち養殖漁業生産組合前の浮桟橋であった。米水津中（赤峰武寿校長、23人）の生徒がアンカーを担い、マダイの種魚300匹を放流した。

県内各地の子どもたちにリレー方式で稚魚を放流してもらい、大会の周知を図り、機運を高めようというもの。2022年10月の松浦小（同市鶴見）を皮切りに今回で43回目。

全校生徒が参加。同校で大会の趣旨などを学んだ後、近くの浮桟橋へ。生徒は「大きく育って」と願いながら、体長5センチほどの稚魚を放流した。終了後、マアジの開きなど、地元産手物の七輪焼きも体験した。

大会は11月10日に大分市などで式典、別府市で海上歓迎があり、中津、佐伯の両市で関連行事がある。大会県実行委員会は小学生を対象に開催中の森・川・海つながり実感！プロジェクトなど、各種活動を通じてさらに機運醸成を図る。（安部亮）

マダイの稚魚を放す生徒＝佐伯市米水津中近くの浮桟橋

大分合同新聞 11面
令和6年9月17日掲載
（大分合同新聞提供）

米水津中生が仕上げ作業

「全国豊かな海づくり大会」へ

【佐伯】11月に県内である「第43回全国豊かな海づくり大会」に向け、佐伯市米水津の米水津中（赤峰武寿校長）の全生徒24人が12日、全国からの来訪者を迎える。アート作品の仕上げ作業に臨んだ。

作品は今夏まで続いたリレー方式の稚魚放流（計43回）などに参加した児童、生徒が寄せた「豊かな海へのメッセージ」（計約1400枚）をつなぎ合わせようというもの。放流のアンカーを務めた同中が仕上げ役を担った。

生徒は「豊かな海があり続けますように！」など、海への思いをメッセージカードに書き込んだ後、作業を開始。汗をかきながら、魚をイメージしたパネルに、約700枚のメッセージを丁寧に貼り付けた。

作品は2セットあり、11月10日にある大分市の式典、別府市の海上歓迎の両会場に飾られる。（安部亮）

①県内の小中学生らから寄せられたメッセージカードを貼り付ける生徒
②仕上げたアート作品の前で笑顔を見せる生徒＝佐伯市米水津中

新聞報道

大分合同新聞 23面
令和6年11月10日掲載
（大分合同新聞提供）

第43回 全国豊かな海づくり大会 ～おんせん県おおいた大会～

にこやか 県民と交流

大分、別府両市で開かれる「第43回全国豊かな海づくり大会」に出席するため、6年ぶりに来県した天皇、皇后両陛下は9日、滞在先の県内の温泉宿や漁業施設などへ出かけ、にこやかに応じたり、交流を楽しんだりされた。

大分港に到着した両陛下は、沿道で歓迎する大勢の人たちに、笑顔で手を振って応えた。

篠原（国東市国東町）では、別府湾などで地域資源の活用に取り組む生産者や漁業に取り組む生産者に、天皇陛下が海の環境や温暖化の影響などについて質問した。

おかれた状況や生産活動を聞かれる陛下は「大変ですね」と言葉をかけられた。

県漁業青年部連合会の松浪繁さん（52）＝佐伯市＝は「水産資源の回復を言葉（ことば）、私たちの取り組みを知ってもらえてうれしい」。別府湾漁業青年部会長の坂口昭さん（42）＝杵築市＝は「しっかり頑張ってください」とほっとした様子だった。

陛下がクルマエビを自にした皇后さまが「おいしそうですね」と言葉をかけ、笑顔で応えられた。

両陛下は大分市内のホテルに移動し、大会で賞（しょう）状（じょう）・盾（たて）の授与式を行った。

「難しくなかったですか」などと出来ばえを聞いていた。絵画で優秀賞に選ばれた桐内心愛さん（11）＝中津市＝は「これからも楽しんで描いてください」と言われ、うれしがった。

県内外の漁業関係者ら18人との懇談もあった。県漁協中津地区漁業青年部長の田中道三さん（52）は、アサリを育てるための、漁場の環境保全活動の取り組みを話すと、皇后さまが「復活できるといいですね」と言ってくださった」と話した。

両陛下に感謝の気持ちを伝えた。

両陛下に感謝の気持ちを伝えた。

両陛下が お声がけ

大会会場で、絵画コンクールで賞を受けた桐内心愛さん（右から2人目）らと交流される天皇、皇后両陛下＝大分市内のホテル＝9日午前（撮影）

魚つかみ取り「やった！」

舞台やグルメ、関連行事にぎわう

第43回全国豊かな海づくり大会の関連行事「豊かな海づくりフェスタ」が9日、大分市中心部で始まった。家族連れら会場の生き物に触れ、海産物のグルメを味わった。10日まで。

JR大分駅内中央口広場には体験ブースを設置。県漁協佐賀関支店は活魚で取れた伊勢エビやガザミ、ヒラメなどを水槽に入れ、子どもたちに直接触れてもらった。

家族で訪れた日田市淡窓の川俣大和さん（8）と婚人ちゃん（6）の兄弟は「釣ったり取ったりするのが楽しい」と喜んだ。

婚人は一本釣りした「開（ヤズ）」のつかみ取りもあり、小学生以下の約60人が挑戦。大分市鶴崎町の村上華恵ちゃん（6）は「びっくりしたけど、楽しかった」と話した。

岡市内内町のトコタカロードでは大分祝祭の広場で試食を楽しんだ。スステージは魚類学者でタレントの「さかなクン」のトークショーや神楽でにぎわった。

10日、海づくり大会の式典や「海と歓迎」放流行事をステージで中継する。（佐藤理生）

関（ヤズ）のつかみ取りに挑戦する子どもたち＝9日、大分市のJR大分駅西口中央広場

大分合同新聞 1面
令和6年11月10日掲載
（大分合同新聞提供）

両陛下 6年ぶり来県

きょう出席 第43回 全国豊かな海づくり大会 ～おんせん県おおいた大会～

漁業施設など訪問

天皇、皇后両陛下は9日、水産業界の関係者や海洋関係者ら約600人が参加する「第43回全国豊かな海づくり大会」（10日、大分、別府両市）に出席するため、来県された。能登半島地震で被害を受けた県漁業生産施設（国東市国東町）を視察し、大分市内の赤ルでは関係者と懇談した。漁業関係者との懇談もあった。（2面に関連記事）

両陛下の来県は2018年の「第33回国民文化祭・第18回全国障害者芸術・文化祭」以来6年ぶりで、即位後は初めて。

正午ごろ、特別機で大分空港に到着し、今年7月にリニューアルした県漁業生産施設を訪れた。魚の成長を促進する稚魚放流オイルエード（LEO）を使った水槽の仕組みについて、県漁業公社の夏平真司理事（62）から説明を受けた。

県漁業生産施設で説明者（左端）の説明に耳を傾けられる天皇、皇后両陛下＝9日、国東市国東町、撮影・山戸孝浩

続いて、県内の漁業者から魚食の放流や増殖の漁法などを聞いた。説明した佐藤吉仁さんは、天皇陛下は「温暖化で海水温が上がり、魚の取れ具合はどうですか」などと熱心に質問を重ねたという。

大分市内のホテル移動後、絵画や習字の作品を観賞し、県内の小中学生4人と交流。県外の漁業関係者約20人と懇談し、豊後水道の養殖ブリや水産資源の保護などに耳を傾けた。

宮内庁によると、両陛下は二つ合わせて6年ぶりに大分を訪れ、「うれしく思います。稚魚を見ていると、海で成長するのを楽しみにしました」と関係者を迎えたという。

大会は10日、いけすクランシアタ（大分市浜町）で式典を開き、別府湾4号埋め立て地（別府市北浜）では漁船団の航進パレードや魚の放流行事がある。1981年に始まり第1回大会が鹿児島県で開かれ、以来、県内では2回目。当時は皇太子（現上皇）ご夫妻が来県された。（清松美明）

新聞報道

みなと新聞 1面
令和6年11月12日掲載
（みなと新聞提供）

豊かな海へ「英知と努力」
大分で全国海づくり大会

第43回全国豊かな海づくり大会が、天皇、皇后両陛下のご臨席の下、9～10日に大分県で開かれた。本大会のテーマは「つなぐバトン　豊かな海を　次世代へ」。同県別府港（別府市）での放流行事では、両陛下がマダイとマコガレイの種苗を放流された。

放流行事前に同漁港の特設会場であった式典では天皇陛下があいさつ。同県内での栽培漁業や養殖、水産物のブランド化など発展に敬意を示し、一大会を契機として、豊かな海づくりの活動に皆さんの英知と努力を再び結集し、さらに発展させていくことを期待。人々の海や水産業への関心と理解がより深まり、豊かな海づくりの輪が全国へ、そして未来に向けて広がっていくことを願う」と述べられた。

主催者あいさつでは、賴賀福志郎大会会長が生産量や就業者の減少など水産の厳しい現状に言及した。科学的な資源管理や各地域の特徴を生かした活性化を必要視。同県については「古くから水産物のブランド化に熟心」とし、関アジ、関サバやかぼすブリ、かぼすヒラメなど関係者の努力に敬意を表した。

同じく主催者としてあいさつした佐藤樹一郎実行委員会会長（大分県知事）は、1981年に同県で開かれた第1回大会を機に、種苗放流や小型魚の漁獲性、県内一斉休漁日などを行ってきたと紹介。今後については「新たな増殖モデルの導入による資源の増大、多様化するマーケットや環境変化に対応した持続的な養殖産地づくりなど『つくり育てる漁業』を一層進めていく」と表明した。

坂本雅信大会推進委員会会長（JF全漁連会長）は「水産関係者は、近年の急激な海洋環境の変化に対応しつつ、資源管理や藻場・干潟の保全等環境回復の取り組みを通じて、水産食料の安定供給を担う責務がある。（中略）つくり育てる漁業に一層取り組むとともに、森・川・海のつながりの重要性を再認識し、決意を新たに豊穣（ほうじょう）の海を次世代に引き継いでいく」などの大会決議を提案。満場の拍手で採択を受けた。

司大会は、人工種苗を放流する「栽培漁業」などを通じ、水産資源の維持、水辺の環境保全や水産業の振興を国民に訴えるもの。例年、天皇、皇后両陛下ご臨席の下、いずれかの都道府県で開かれている。来年大会は三重県で行う予定。

放流される天皇、皇后両陛下

水産経済新聞 2面～3面
令和6年11月18日掲載
（水産経済新聞提供）

第43回全国豊かな海づくり大会　おんせん県おおいた大会

天皇・皇后両陛下をお迎えし開催

式典行事　10日　大分市 HiChiKoグランシアタ

海づくりの輪を全国、未来へ

43年ぶり2度目の大分大会

海上歓迎・放流行事　10日　別府港第4埠頭

始まりの地の開催で、思いを新たに

御視察　9日　大分県種苗生産施設（国東）

作品御覧　9日　ホテル日航大分オアシスタワー

御懇談

関連行事　9・10日　豊かな海づくりフェスタ